

## パブリックコメントの結果

	ページ	ご意見	対応
①	P 1	<p>使われている字体に、ゴシック体や明朝体の混在が見受けられます。</p> <p>相談に来られる方や、ともにはたらくスタッフの中には、「言葉は理解できるが文字を読めない（読みにくい）」といった「ディクレクシア（識字障害）」の方や高齢の方などで視力が弱い方がいます。</p> <p>文字を読めない（読みにくい）原因は人によってさまざまですが、「明朝体」の読みにくさは比較的広く知られていて、他市の計画を見ると「UD フォント」などの使用によって、その配慮が感じられます。また図や写真などの活用などにもよっても、'より多くの方に伝わる計画を'を強く希望します。</p>	<p>現時点において、「UD フォント」の明朝体とゴシック体を利用しています。</p> <p>また、本計画では図表やイラスト、写真を用いるなど、見やすさ、わかりやすさに配慮して計画策定に努めました。</p>
②	P 3	<p>前文の「国において～示されている」内容のようですが、●3つ目の項目に関しては、相談対象者に問題があるような書き方になっています。</p> <p>相談につながらないケースとして、①「自らが課題に気づいておらず、相談の必要性を感じていないケース」②「相談したいが、相談先までたどり着かないケース（障害などを理由に、物理的に相談先へいけないどこに相談すればよいかわからず困っている）」の2パターンが想定されます。</p> <p>後者は、そのあとの文言に書かれている「自ら相談に行くことが困難」の部類に近く（それでも、誰もが相談先にアクセスできる環境の整備は社会の側に必要ですが）、前者は、要援護者のみならず、偏見や決めつけ、傾聴のスキル、支援パターンの固定化等の関わる支援者の支援スキル不足によって支援ニーズを引き出せていないということも実際起きています。要援護者のみならず、そこに関わる支援者のスキルアップも課題として記載を求めます。</p>	<p>地域福祉をめぐる現状と課題については、国の資料からの引用となりますが、「●自ら相談に行く力がない」の表現が相談対象者に問題があるように受け止められる場合もあることに配慮し、「●自ら相談に行く力がない」を削除し、「●社会的孤立・孤独」の下に「・頼る人がいない、自ら相談に行くことが困難」と修正します。</p>

③	P 4	<p>「本市において～協働できる機会や場づくりを行います。」の「地域住民等」の前に「地域で活動している NPO や地域活動団体」も追記いただきたいです。</p> <p>今回の団体アンケートでも明らかになった地域課題は、活動しているからこそその意見であり、そことの協働を見据えていただけると、より地域福祉活動の活性化につながると思います。</p>	<p>「行政、社会福祉協議会及び地域住民等が協働できる機会」を「行政、社会福祉協議会及び地域住民や地域活動団体等が協働できる機会」に修正します。</p>
④	P 3 4	<p>R2年度に深野エリアに、当法人と、地域自治体の役員が協働して「空き家を活用した多世代交流型お茶のみ休憩所」を開設しました。</p> <p>新たな休憩所が立ち上がっていることを取り組み状況に掲載していただきたいです。また「従来の、高齢者の集まりになりがちなお茶のみ休憩所事業で、多世代とうたったことは先駆的であり、モデルになっている」と社会福祉協議会の職員からの評価もいただいたり、傾聴ボランティア団体、子育て世代応援団体、地域ボランティアにも協力いただき活発に活動しています。地域課題の一つである空き家を活用していることも特色です。</p>	<p>本市内のお茶のみ休憩所については、個々の取組状況を掲載することを考えておらず、「市内6中学校にてお茶のみ休憩所」の中に含めた掲載としております。</p>
⑤	P 5 8	<p>【意見④】と同様、R2年度に深野エリアに休憩所を開設しました。[深野][地域のコミュニティサロンゆっくり]の記載をお願いいたします。</p>	<p>お茶のみ休憩所（まちかどサロン）の該当箇所（表中）で掲載します。</p>